

# 福岡県労連

## KEN ROREN

ZENROREN

2025  
11月号  
No.225

発行所 福岡県労働組合総連合  
〒815-0081 福岡県福岡市南区那の川  
1丁目3-6 福建労東西支部会館3階  
☎092-401-2293 FAX 092-401-2294  
編集発行  
福岡県労働組合総連合  
福岡県労連 検 索



〔定価〕  
1部10円

労働運動交流集会(レバカレ2025) 参加レポート

# 仲間がいるから変えられる、 みんなで作る労働運動の新しいステージ



興奮と期待のオープニングトークセッション



全労連九州ブロック分科会

シオンしました。

この分科会は全労連九州ブロックが運営を担当し、渡邊事務局長がファシリテーターを務めました。「人権」をテーマとして、まずバイアスを意識することを通じて外国人問題を考えてというレクチャーを行ったのちに、技能実習生の裁判や労働相談事例報告し、今の社会について感じていることを共有し、労働組合と

この分科会では、25春闘でストに挑戦したララコープ労組など3つの労組がスト決行と断念のエピソードを3つのポイント①なぜストをたたかおうと思ったのか②執行部内部や職場でどんな葛藤や不安があったのか③

排外主義に対して私たちはどう考えるか

してできることを参加者と共に対話を通じて考えました。

### 分科会の報告

このレバカレは、アメリカで「労働運動に運動を取り戻す」をスローガンに2年に1回、労働運動活動家が集まって交流・学習をおこなうレイバーノーツ大会の日本版ともいえる企画で、労働運動が一部の幹部主体の請負

10月11日(土)〜13日(月)の3日間、東京・京橋、八重津ビジョンセンターにて、全労連主催の「労働運動交流集会(レバカレ2025)」が開催され、全国から700人を超える労働者が参加し、学習し交流しました。福岡からは14名が参加しました。

この分科会では2名の学生アルバイトが労働組合を結成し、その後20名まで組合員を増やし、ストライキを実施して6%の賃上げを勝ち取った経験についてスピーチから報告があり、トークセッション形式で参加者と意

### スシローストライキの表と裏

この分科会では、まずなぜこの分科会を選んだのかをグループで話し合ったのちに、心理的安全性についてのレクチャーを行い、スピーカーから心理的安全性を取り組んだ実践報告があり、その後今後活かしたいことをグループで話しあいました。スピーカーとして福祉保育労・福岡地本の筒井さんが報告をされました。

会議でシーンとするチームを心理的安全性で変える！

この分科会では、まずなぜこの分科会を選んだのかをグループで話し合ったのちに、心理的安全性についてのレクチャーを行い、スピーカーから心理的安全性を取り組んだ実践報告があり、その後今後活かしたいことをグループで話しあいました。スピーカーとして福祉保育労・福岡地本の筒井さんが報告をされました。



レイバーノーツ・エレン局長のトークセッション

3日間通じて想像を上げる熱気で、対話と学びあいを通じて、職場や社会を変えるヒントや勇気があふれる集会でした。たたかう労働運動の新しいステージをテーマに各地で実践を広げることが確認して集会は終了しました。



スシローストライキ分科会

見交換しました。スピーカーからは業界の問題について社会に発信することを目的にストを決行したこと、ストすることによって力になったことが報告されました。

があり、その中から自由を選んで参加します。分科会以外にも全体会が3日間ともに開催され、1日目「導入」2日目「深める」3日目「未来へ」という一連の流れで構成され、参加者が当日の獲得目標や到達点を共有できるようになっています。

そして最大のイベントとして、2日目の夜に夕食交流会があり、全国からの参加者と交流をすることができます。



10月21日に高市早苗氏が首相になり高市政権が誕生しました。政権誕生後すぐ、公明党との連立を解消し、自民党は維新の会に連立をシフトしました。

自民と維新は、連立合意書で衆議院の比例部分の1割定数削減をめざすとしています。自民党が過半数割れになつた一番の原因は、裏金問題と企業献金であり、先ずは裏金問題の徹底追及と企業献金廃止こそが急がれます。女性総裁でイメージ刷新どころか、自民党新執行部は先祖返りしたように派閥と裏金議員だらけになつています。自民と維新は、裏金問題を棚上げにただでなく、憲法九条改悪や社会保障改悪、スパイ防止法制定などめざしています。スパイ防止法は、1985年に中曽根首相時代に提出され、政府にとって思い通りに判断が可能な悪法」と大きな世論の力で廃案に追い込まれたものです。社会保障問題では、保険料引き下げを口実に医療費4兆円削減を主張していますが、医療費削減が進められれば、地域の医療が崩壊してしまいます。一方で、希望の目も生まれています。山口県知事選で「市民連合@山口」が立憲共産社民と統一候補をめざす、と報道されています。福岡県でも立憲野党の共同をすすめることが重要です。



# なくせ!じん肺アスベスト被害 全国キャラバン

～福岡行動に参加して～

県労連事務局次長 相場 裕治



山本弁護士からの要請書を受け取る福岡労働局の担当者

今年で36回目となる「なくせ!じん肺アスベスト被害全国キャラバン」が、今年も取り組まれました。じん肺アスベスト被害は、「わが国最古にして最大の職業病」です。被害者の早期救済と二日も早い根絶をめざして、1990年から毎年、47都道府県全てにおいて様々な運動を展開しています。福岡県では10月6日の福岡出発集会にはじまり、8日の大牟田地区と16日の福岡地区での行動ののち、23日の厚生労働省と国土交通省との交渉と議員会館での集結集会へと続きました。今回わたしたちは、16日に取り組まれた福岡労働局・福岡県・福岡市に対する要請と交渉に、福岡県実行委員19人の一人として参加しました。

福岡労働局では、かつてホームページの先頭画面に「アスベスト」のバナーが置かれて明瞭だったのに、これも無くなり周知が後退している点を、田村医師より指摘して改善を求める場面もありました。県庁での交渉では、行橋市立仲津小学校の体育館天井にアモサイトを含む吹付け石綿使用が判明した件で、「父兄とのリスクコミュニケーションに問題があった」としたが、この問題は、父兄や福建労などからの要請に関わらず、冬休みを待つことなく父兄も生徒も在校する「参観日」に除去工事を強行したことで、ヘパフィルターの性能を持つても漏れ出せ口にならないことも強調して県下の市町村への指導を求めました。

福岡市との交渉では、製品としての石綿含有ロックウールの製造中止後も現場で石綿を混ぜて吹付け作業がおこなわれており、ロックウールだから石綿ははいっていないとは限らないという点を指摘する場面もありました。

弁護士や医師とともに労働組合も毎年参加しており、福建労・建交労の仲間たちと県労連渡邊事務局長も一緒に行動しました。数年ぶりの参加でしたが、「はたらくもののいのちと健康を守る」行動であるキャラバン行動の歴史と意義を、あらためて学ぶことができました。



井下弁護士による挨拶

生活保護基準引き下げ・年金引き下げの2つの違憲訴訟を支援する「いかなんよ貧困・福岡の会」の第10回総会が、10月26日に北九州・福岡の両会場をオンラインでつなぐかたちで開催されました。

総会に先立ち代表の井下弁護士より「アスベスト裁判は謝れ・つぐなえ・なくせを枕詞に裁判を闘ってきた。この裁判でも最高裁判決がでたのだからまずは謝ること次につぐない、なくすことが大事。しかし政府はい

## いかなんよ貧困 第10回総会 早期救済と権利としての生活保護の確立を

まだに謝ろうとしない。今後も政府に対しての運動を強めることが必要」との挨拶がありました。

総会では特別報告として福岡訴訟弁護団長の高木弁護士から「いのちのとりで裁判について」と題して、この裁判の争点となっている厚労省がごこなつた物価偽装についてとそれを断罪した最高裁判決の要点について解説がありました。その後、議案提案では懸谷事務局長より政府の公式の謝罪はないものの社会保障審議会の委員から謝罪表明があったことが紹介され、政府の謝罪と救済を求める運動を今後も継続して取り組むとの方針提案がありました。

誰かが安心して働ける社会

「日本の働き方を問い直す…過労死ゼロ社会実現への道」と題した川村雅則さんの講演を拝聴しました。日本の働き方は、これまでの年功序列や終身雇用を基盤とした仕組みから、能力や成果を重視するスタイルへと変化してきました。しかしその結果、成果を求めるプレッシャーや長時間労働が増加し、過労死のリスクが高まっている現状が指摘されました。また、企業の利益が労働者に十分に還元されず、賃金や待遇の改善が進みにくくなっている実態についても報告がありました。さらに、労働組合の力が弱まり、働く人々の声が企業に届きにくくなっていることへの問題提起もありました。最近の法改正の議論では、労働時間の規制を緩和し、企業と労働者の話し合いに委ねる方向性が強まっていますが、労使間の力の差を考えると、労働者が不利になる可能性があります。特に、労働時間が長いと感じました。特に、労働時間規制の適用除外（デロゲーション）の拡大は、何としても阻止すべき課題であると理解しました。

総がかり実行委員会 Love&Peace

## 支えあい共に生きる 社会をつくろう



10月19日、天神ツインビル前にて総がかり実行委員会主催の集会が開催されました。この総がかり実行委員会は安倍政権の時に行委員会が強制されたこと、戦争法が強制されたこと、に抗議するため市民団体・労働組合・弁護士・医療機関など様々な団体が協力して集会やデモ行進などの共同行動をおこなったことを契機に結成され、毎回様々な行動を行ってきました。

今回の集会では、7月参議院選以降に外国人排斥を主張する風潮が強くなっていることに対してそうで

はなくて支えあい共に、主権者である国民が声をあげようという活動をテーマとし、集会では権利を守る活動をして、政治にNOの審判が下つたのに民意を無視した政治がおこなわれていることに対し

は渡邊事務局長が

是非正規労働者と外国人労働者の労働実態についてスピーチを行いました。

集会後は軽快なテンポにあわせてシブプレヒコールをしながらデモ行進を行いました。参加者は150名でした。

### 「過労死等防止対策推進シンポジウム」感想

エフコプ生協労働組合 樋口 和雄

を実現するためには、公平な利益の分配、労働組合の再強化、納得できる評価制度の整備、そして労働時間の厳格な管理が不可欠です。過労死ゼロ社会の実現には、働き方そのものを根本から見直すことが求められています。

次に、「過労死のない社会を願って」と題し、過労死を考える家族の会 安部さんの体験談発表を拝聴しました。ご自身の経験を通じて語られた「社会への思い」として、①なぜ過労死が起こるのかを多くの人に知ってほしいこと、②過労死は個人の問題ではなく社会全体の問題として捉えるべきであること、③法律・制度・ルールの整備が必要であること、④気軽にコミュニケーションできる職場・地域・社会の重要性、そして最後に「人の意識が変わらなければ社会は変わらない」という力強いメッセージが発信されました。これらの言葉に深く共感し、改めて過労死のない社会の実現に向けて、私たち一人ひとりが意識を変え、行動することの大切さを感じました。